

いのち 食と農と生命を守る 食料安全保障の強化を県選出国會議員へ要請

J Aグループ山形は8月18日、「食と農と生命を守る山形県J A代表者集会」を開催しました。新型コロナウイルスの感染急拡大により、当J Aからは田村久義組合長はじめ役員5人が山形市の主会場で、地区農政対会長および作目組織の代表や当J A役員60人は本所大会議室でWEBによる集会に参加しました。

集会では、食料だけではなく農業生産資材の多くを海外に依存し、食料安定供給のリスクが懸念されている中、食と農と生命を守るために「食料安全保障の強化」に向けた政策の実現を政府に働きかけるよう要請しました。

主会場では、田村久義組合長が集会決議案を読み上げ満場の拍手で承認され、集会の最後には「がんばろう三唱」で決意を新たにしました。



▲力強く「がんばろう三唱」を行いました

スマホで労働力確保 1日農業バイトアプリ「デイワーク」機能学ぶ



▲実際に操作しながら機能を学ぶ生産者

当J Aは7月22日、1日農業バイトアプリ「day work (デイワーク)」の操作説明会を本所で開き、管内の生産者12人が参加しました。説明会には、アプリを開発したkamakura Industries (株)の原雄二社長と県農林水産部農業経営・所得向上推進課の加藤恵理主査が、機能や実績を紹介。

「デイワーク」は数時間から1日単位で農作業求人・求職のマッチングを仲介するアプリ。生産者、求職者がパソコンやスマートフォンアプリに登録し、作業内容や時間、賃金などの条件を基にマッチングします。

当J Aは今後、アプリの活用を推進し労働力確保に取り組む方針です。



長ネギ収穫が始まる 共選施設稼働

長ネギの収穫が8月4日から始まりました。八幡地区の当J A長ネギ共選施設は8月5日に稼働し、掘り取られた長ネギが次々と運び込まれ活気に溢れていました。

当J Aでは「長ねぎ生産拡大推進事業」として、農業者の所得増大と園芸生産の拡大を図るために育苗から収穫・調製までの主要な作業をJ Aが請け負う取り組みを行っています。同施設では、J A長ねぎ作業受託班から搬入された長ネギの、皮むき、選別、拭き上げ、箱詰めまでを行います。調整処理能力は1日平均400箱（1箱5kg）、出荷は12月まで続きます。

今年是个選、共選合わせて生産者72人が16・1haで栽培。主に関東方面の市場へ290トンの出荷を見込んでいます。



▲稼働初日、活気づく長ネギ共選施設